別紙

# 研 究 等 成 果 報 告 書

| | |
|---|---|
| 研究費の区分 | 基盤研究費・学部等研究費・全学研究費<br>種目： |
| 研 究 課 題 | 岩手県立大学における英語教育プログラム改革 --- TOEIC (Bridge)による本学学生の英語力調査とその分析 |
| 学部等・職・氏名 | 共通教育センター・講師・高橋英也 |
| 研究成果の概要 | 本研究は、Ｈ２０年度より導入された新たな英語プレイスメントテストである TOEIC Bridge のスコア分析を中心に、(i)これまでの本学における英語教育の成果や問題点について総括を行い、(ii)本学学生の英語学力の実態を正確にとらえ、(iii)今後本学が目指すべき英語教育の方向性について検討する。そして最終的に、(iv)本学において理想的かつ実施可能な新たな英語教育プログラムを提示することを目標とするものである。より具体的には、以下に挙げる（１）から（４）の調査に基づくデータ収集・分析と、学外における TOEIC や共通教育関係の研究会への参加や他大学の実践事例などから得られる情報を用いて、今後どのような英語教育が本学学生に必要であるのか、またそのために何をどのように整備していかなければならないかを明らかにすることを目標とする。そして、本学が学生にどのような英語教育を提供し卒業時にどのような英語力を身につけさせることを期待するのか、という観点から本学にとって理想的な英語教育のあり方を具体的に提示することがを本研究の最終的かつ究極的な目標とするものである。<br>（１）２０年度から２２年度の１、２年生を対象とした TOEIC (Bridge) の成績推移の比較検討<br>（２）２０年度から２２年度新入生の学部別・入学区分別・出身県別の英語学力調査<br>（３）TOEIC (Bridge) の成績と授業における英語運用能力の関連性に関する調査<br>（４）英語教員（専任）による課外での TOEIC 対策講座の実施と受講者を対象とした学内 TOEIC 受験（就職対策で受験希望の学生の受験も許可する）の実施と成績推移の調査<br>今年度は３年研究の２年目であるが、計４回の学生の実態調査から本学１、２年生の英語力（および英語学習に対する態度）の傾向が見えてきたことから、一定の成果が得られたとし次年度への継続はしないこととした。 |

| | |
|---|---|
| 目標の達成状況 | 今年度は、調査データの蓄積とともに、「学生の英語学習環境の見直しと発展」という観点から、TOEIC 説明会と TOEIC（Bridge）対策講座を連続性を持たせる形で系統立てて実施した。講座受講生の大半は、TOEIC Bridge IP テストを受験し、一定量の問題演習を経ることで通常授業の習熟度に関わらず得点は大きく上昇した。この事例は、TOEIC(Bridge)を単なるプレイスメントテストとしてではなく教育内容に組み込み、より発展的な英語学習につなげることが、本学学生の学力で十分可能であることを示したといえる。また、今年度は「英語学習の手引き」を作成し全１，２年生に配布することで、課外学習の手段と方法についての本学専任教員の考え方を学生に対して明示した。今後は、学生の実態調査から得られたデータが、全学的な取り組みにより入試制度改革や共通教育の整備に生かされていくことを期待したい。 |
| 成果発表等 | |

注　学会発表論文等の成果発表資料を添付すること。（成果発表資料がない場合は、研究実施レポートを添付すること）記入欄が不足する場合は記入欄を拡張してください。